第 24 回吉岡延生記念講演会
（第 338 回東京女子医科大学学会例会）

日 時：平成 20 年 5 月 22 日（木）13:30～16:00
会 場：東京女子医科大学 弥生記念講堂

平成 20 年度吉岡延生研究奨励賞授与式
FKTN 遺伝子異常の臨床スペクトラムの検討
小児科学 村上てるみ

ウイルス発現ベクターを用いた神経細胞染色法による
海馬辺領域の線維連絡の解析
解剖学 本多祥子

平成 19 年度吉岡延生研究奨励賞受賞者研究発表
細胞構成細胞の分化、増殖に関する研究
―肺幹細胞の同定と機能解析をめざして―
肺疾患等の疾患治療に必要な、細胞 support 療法の
基礎および臨床への応用を目指す。[背景]
肺構成細胞のニトロサル肺肺幹細胞は、肺内分枝細胞、肺
外分枝細胞へ分化していく細胞であり、このような分化
増殖能のある細胞の臨床応用を考え、まず肺前駆細胞
およびその他の細胞からの肺細胞の分化、増殖過程の検
討を行うことを始めた。この考えの一つとして、肺 
肺細胞の成熟に至る lineage を示すことができたが
(Pancreas 32: 408-416, 2006)。このような細胞の lineage
の検討から多くの細胞の可塑性が明らかになり、細胞療法
に多様な細胞ソースが用いられ、本来の組織、細胞の
再生能力に期待をかけた疾患の治療の可能性が示される
ようになった。細胞分化の lineage の検証は、または正常
の肺組織の発達の際に起る転写因子のネットワークを
追跡していくことであり、このような情報は、肺疾患や
糖尿病などの病態や治療法などに有益であり、今回は
gene profiling で得られた結果について報告する。[方法
・結果] インスリンおよび胆の発達 - β 胞細胞の最終分
化にかかわる転写因子である maf A を siRNA でノック
ダウンし、microarray により肺における gene profiling
を行った。インスリン遺伝子のほか、adiponectin (adip
cytokine, adiponectin) の発現低下が認められた (BBRC 356:
129-135, 2007).

本邦における先天性筋無力症候群患者の形態学的、遺
伝的解析と治療の試み

（小児科学） 石垣寛子

先天性筋無力症候群（congenital myasthenic syndrome; CMS）は、神経筋接合部の先天的分子欠陥によっ
て生じる非常に稀な疾患群である。アクチナルコリン
(ACh) 受容体欠乏症は CMS の半数以上を占めるが、本
邦での報告例は少ない。その理由として、遺伝子解析や神
経筋接合部の選択的筋生検など、確定診断に必要な手法
を実施でき施行がほとんどに行われることを挙げられる。
神経筋接合の形態学的解析から確定診断に至った、本邦